



ストレッチ クラスタ アップグレード

- [概要 \(1 ページ\)](#)
- [ストレッチ クラスタのアップグレードのガイドライン \(1 ページ\)](#)
- [HX Connect を使用した HyperFlex ストレッチ クラスタのアップグレード \(2 ページ\)](#)
- [監視 VM のアップグレード \(4 ページ\)](#)
- [Cisco HyperFlex Stretch Cluster 3.5\(x\) に対して ESXi を手動でアップグレードする \(6 ページ\)](#)

概要

このセクションでは、Cisco HyperFlex ストレッチ クラスタのアップグレードに関連する情報を示します。ストレッチ クラスタのアップグレードを実行する手順は、通常の HyperFlex クラスタのアップグレード手順と似ています。

ストレッチ クラスタのアップグレードのガイドライン

- [HX データ プラットフォーム \(HXDP\) ソフトウェア推奨リリース バージョン : Cisco HyperFlex HX シリーズ システムの Cisco HyperFlex アップグレード ガイドライン](#)を見直します。
- HX Data Platform の分割アップグレードのみがサポートされます。UCS ファームウェアのアップグレードはサポートされていません。
- 手動クラスタ ブート ストラップは、3.5 より前のリリースから 3.5(1a) へのアップグレードに必要です。
自動ブート ストラップは、3.5(1a) からそれ以降のリリースへのアップグレードでサポートされています。
- 3.0.x から 3.5.x 以降のリリースにアップグレードする場合：
 - 1 個のみのノードを手動ブートストラップした場合、[Cluster Upgrade (クラスタアップグレード)] ページの [Select Upgrade Type (アップグレードタイプの選択)] セクションに [ESXi] チェックボックスは表示されません。ESXi アップグレード オプション

ンは、HX データ プラットフォームをリリース 3.5.x 以降のリリースにアップグレードした後のみ表示されます。

- すべてのノードを 3.5.x またはそれ以降のリリースに手動ブートストラップした場合、**[Cluster Upgrade (クラスタ アップグレード)]** ページの **[Select Upgrade Type (アップグレードタイプの選択)]** セクションに **[ESXi]** チェックボックスは表示されません。ただし、この時点では ESXi のアップグレードのみを実行することはできません。HX Data platform + ESXi のアップグレードを組み合わせることで実行できます。
- HyperFlex Witness ノードバージョン 1.0.2 は、3.5(1a) 以降のリリースからサポートされています。拡張クラスタを 3.5(1a) 以降のリリースにアップグレードする場合、HyperFlex Witness ノードのアップグレードは不要です。
- Hypercheck ヘルス チェック ユーティリティ: アップグレードする前に、Hypercheck クラスタでこの予防的ヘルス チェック ユーティリティを実行することを推奨します。これらのチェックにより、注意が必要なエリアがすぐに見やすくなり、シームレスなアップグレードエクスペリエンスを保証します。Hypercheck のインストールと実行方法の完全な手順の詳細については、『HyperFlex 健全性および事前アップグレードチェック ツール』を参照してください。

HX Connect を使用した HyperFlex ストレッチ クラスタのアップグレード

HyperFlex ストレッチ クラスタを現在の Cisco HX Data Platform バージョン 3.0(1x) 以降のリリースからアップグレードする場合は、次の手順に従ってください。



- (注) アップグレードされているノードの電源障害またはリブートによって HyperFlex パッケージの更新が中断された場合は、システムの状態に応じて問題を修正するために、コントローラ VM を再イメージ化するか、手動による介入が必要です。詳細については、Cisco TAC にお問い合わせください。

始める前に

- アップグレード前の検証チェックを完了します。詳細については、[前提条件](#) を参照してください。
- [\[Software Download\]](#) から、既存のクラスタを以前のリリースからアップグレードするための最新の *Cisco HX Data Platform Upgrade Bundle* をダウンロードします。
- 「オンラインアップグレードプロセスのワークフロー」の手順 1–6 を実行します。詳細については、[オンラインアップグレードプロセスのワークフロー](#) を参照してください。

- Cisco UCS インフラストラクチャをアップグレードします。
- HX Data Platform プラグインをアップグレードするためにブートストラップします。
- ブートストラップされたストレージコントローラ VM でスナップショットスケジュールを無効にします。
- DRS が有効な場合、VM は自動的に vMotion を持つ他のホストに移行されます。



(注) DRS が有効になっており、ノードの VM が vMotion とともに移行されない場合、ノード上のすべての VM は自動的にシャットダウンされます。詳細については、VMware のマニュアルで、vMotion を使用した移行の説明を参照してください。

ステップ 1 HX Connect にログインします。

- a) ブラウザに HX ストレージ クラスタ管理 IP アドレスを入力します。 <https://<storage-cluster-management-ip>> に移動します。
- b) 管理ユーザ名とパスワードを入力します。
- c) [ログイン (Login)] をクリックします。

ステップ 2 ナビゲーション ペインで、[Upgrade] を選択します。

ステップ 3 [Select Upgrade Type] ページで [HX Data Platform] を選択し、次のフィールドの値を入力します。

表 1:

UI 要素	基本情報
Drag the HX file here or click to browse	「 Download Software - HyperFlex HX Data Platform 」から、前の release.tgz を使用した既存のクラスタをアップグレードするための Cisco HyperFlex Data Platform アップグレード バンドルの最新パッケージ ファイルをアップロードします。 サンプル ファイル名の形式: <i>storfs-packages-3.5.2 a-31601. .tgz</i> .
現在のバージョン	現在の HyperFlex Data Platform バージョンが表示されます。
Current cluster details	HyperFlex バージョンおよび クラスタ アップグレード状態 のような HyperFlex クラスタの詳細がリストされます。
Bundle version	アップロードされたバンドルの HyperFlex Data Platform バージョンが表示されます。

UI 要素	基本情報
(任意) [Checksum] フィールド	MD5 チェックサム の値は、アップグレード パッケージ がダウンロードされた場所と同じ /tmp ディレクトリにある別個のテキスト ファイルに保管されています。 このオプションステップは、アップロードされたアップグレードパッケージ バンドルの整合性を検証するのに役立ちます。

ステップ 4 vCenter クレデンシャル を入力します。

UI 要素	基本情報
[User Name] フィールド	vCenter <admin> ユーザ名を入力します。
[Admin Password] フィールド	vCenter <admin> パスワードを入力します。

ステップ 5 [Upgrade] をクリックして、クラスタ アップグレード プロセスを開始します。

ステップ 6 [Upgrade Progress] ページの [Validation Screen] に、実行中の検査の進行状況が表示されます。検証エラーがある場合は修正します。アップグレードが完了したことを確認します。

監視 VM のアップグレード

始める前に

- HyperFlex ストレッチ クラスタのアップグレード
- アップグレードされた HyperFlex ストレッチ クラスタは正常な状態である必要があります。アップグレード後にストレッチ クラスタのヘルス状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
root@StCtlVM:~# stcli cluster info | grep healthy
```

ステップ 1 SSH を使用して監視 VM にログインし、次のコマンドを実行してサービス exhibitor を停止します。

```
root@WitnessVM:~# service exhibitor stop
```

ステップ 2 /usr/share/exhibitor/ パスで使用可能な exhibitor ファイルを、exhibitor.properties ファイルを取得できるリモートマシンにコピーします。

```
scp root@<Witness-VM-IP>:/usr/share/exhibitor/exhibitor.properties  
user@<Remote-Machine>:/directory/exhibitor.properties
```

ステップ 3 監視 VM からログアウトします。電源をオフにして、監視 VM の名前を WitnessVM.old に変更します。

(注) ping コマンドを使用して、古い監視 VM の IP アドレスが到達不能であることを確認します。

ステップ4 新しい監視 VM を展開し、古い監視 VM と同じ IP アドレスを設定します。

(注) IP アドレスに到達できない場合、監視 OVA の導入には /var/run/network ディレクトリ内の古いエントリが含まれている可能性があります。これらのエントリを手動で削除し、VM を再起動して、割り当てられた IP アドレスがネットワーク上で到達可能になるようにする必要があります。

VM をリブートするには、vCenter/vSphere で VM コンソールを開き、次のコマンドを実行します。

```
rm -rf /var/run/network/*
reboot
```

ステップ5 SSH を使用して新しい監視 VM にログインし、次のコマンドを実行してサービス exhibitor を停止します。

```
root@WitnessVM:~# service exhibitor stop
```

ステップ6 Exhibitor ファイルをリモート マシン (ステップ2でコピー) から新しい監視 VM の /usr/share/exhibitor/ パスにコピーします。

```
scp /directory/exhibitor.properties root@<Witness-VM-IP>:
/usr/share/exhibitor/exhibitor.properties
```

ステップ7 次のシンボリック リンクが新しい監視 VM に保持されているかどうかを確認します。

```
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:~# cd /etc/exhibitor/
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:/etc/exhibitor# ls -al
total 8
drwxr-xr-x 2 root root 4096 Sep 11 13:00 .
drwxr-xr-x 88 root root 4096 Sep 11 12:55 ..
lrwxrwxrwx 1 root root 41 Sep 11 13:00 exhibitor.properties
lrwxrwxrwx 1 root root 37 Jul 24 16:49 log4j.properties
```

シンボリック リンクが使用できない場合は、次のコマンドを実行します。

```
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:/etc/exhibitor# ln -s /usr/share/exhibitor/exhibitor.properties
exhibitor.properties
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:/etc/exhibitor# ln -s /usr/share/exhibitor/log4j.properties
log4j.properties
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:/etc/exhibitor# ls -al
total 8
drwxr-xr-x 2 root root 4096 Sep 11 13:00 .
drwxr-xr-x 88 root root 4096 Sep 11 12:55 ..
lrwxrwxrwx 1 root root 41 Sep 11 13:00 exhibitor.properties ->
/usr/share/exhibitor/exhibitor.properties
lrwxrwxrwx 1 root root 37 Jul 24 16:49 log4j.properties -> /usr/share/exhibitor/log4j.properties
```

ステップ8 次のコマンドを実行して、service exhibitor を起動します。

```
root@Cisco-HX-Witness-Appliance:~# service exhibitor start
exhibitor start/running, process <ID>
```

Cisco HyperFlex Stretch Cluster 3.5(x) に対して ESXi を手動でアップグレードする

ステップ 1 いずれかのホストを選択し、vSphere Web クライアントを使用して HX メンテナンス モードにします。ホストがメンテナンス モードになったら、次の手順を実行します。

ステップ 2 SCP を使用してファイルをコピーするには、同様に、接続先 ESXi ホストの SSH サービスを開始します。

- (注)
- HX240 では、ローカルの SpringpathDS データストアまたはマウントされた HX データストアを使用できます。
 - HX220 では、マウントされた HX データストアを使用するか、一時的な RAM ディスクを作成することができます。

```
scp local_filename user@server:/path/where/file/should/go
```

ステップ 3 ESXi にログインし、次のコマンドを実行して使用可能なイメージプロファイルの一覧を照会し、プロファイル名を確認します。

```
esxcli software sources profile list -d <location_of_the_esxi_zip_bundle_on_the_datastore>
```

注目 esxcli ソフトウェア コマンドを使用する際はフルパスを使用する必要があります。

例 :

```
[root@localhost:~] esxcli software sources profile list -d /vmfs/volumes/5d3a21da-7f370812-ca58-0025
b5a5a102/HX-ESXi-6.0U3-13003896-Cisco-Custom-6.0.3.9-upgrade-bundle.zip
Name                               Vendor  Acceptance Level  Creation Time
Modification Time
-----
HX-ESXi-6.0U3-13003896-Cisco-Custom-6.0.3.9  Cisco  PartnerSupported  2019-04-02T00:14:56
2019-04-02T13:38:34
```

ステップ 4 次のコマンドを実行して、アップグレードを実行します。

```
esxcli software profile update -d <path_to_profile_ZIP_file> -p < profile name>
```

例 :

```
[root@HX-ESXi-01:/vmfs/volumes/1a234567-89bc1234] esxcli software profile update -d
/vmfs/volumes/1a234567-89bc1234/HX-Vmware-ESXi-60U2-4192238-Cisco-Custom-Bundle-6.0.2.3.zip
-p HX-ESXi-6.0U3-13003896-Cisco-Custom-6.0.3.9
```

ステップ 5 ESXi ホストが起動したら、ホストが適切なバージョンで起動したことを確認します。

```
vmware -v1
```

ステップ 6 vSphere Web クライアントを使用して、メンテナンス モードを終了します。

ステップ 7 次の ESXi のアップグレードに進む前に、クラスタが正常な状態になっていることを確認します。

```
stcli cluster storage-summary --detail
```

ステップ 8 クラスタ内のすべてのホストに対してこのプロセスを順に繰り返します。

(注) ESXi をアップグレードするごとに、クラスタが正常な状態になっていることを確認してから、次の ESXi のアップグレードに進んでください。
